

㊸ 古今百名かるた句集

初空や松も千歳の深みとり
翠とはよき名や松の花□は
高き名を松にとゝめて雪の庵

春もまた浅し端山の薄みとり

戌のとし春

㊹ あらし山に遊ひて

初花や垣直そうとおもふ内
掃すともよきに清めて花むしろ
谷越しや夕うくひすの囉ひ鳴
治聾酒を老のうへにも頼みかな
乗らぬ駕釣らすも花の奢り哉
あらし山に遊ひて

古今百名

かるた句集

水玉連
企 素周

古人かるたに記載の句

蓬萊に聞はや伊勢の初たより
傀儡師阿波の鳴戸を小うた哉
萍や今朝はあちらの岸に咲
竹の子やはたけ隣に悪太郎
蝙蝠に顔かられなよ闇の橋
手にとるなやはり野に置け蓮花草
渋ひかは知らねと柿の初ちぎり
顔見世や舌はん太鼓二番鶏
布団着て寝たる姿や東山

花の香を留てもとるや袖袂
見えぬまで跡見て帰る桜かな
ひょうたんもけふは世に出る桜哉
懸茶屋に馴れぬ娘や初さくら
我世ともおもふ桜のさかり哉
かこつけて廻り道する花見哉
夜さくらも又一しほの風情かな
江南の札も建たきさくら哉
杉月堂主人の推拳によつて此度
九起宗匠より入門の許状を得て
花の香に見上げる

山の高さかな

龍枝軒
笑 嵐